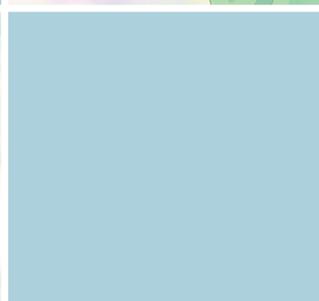
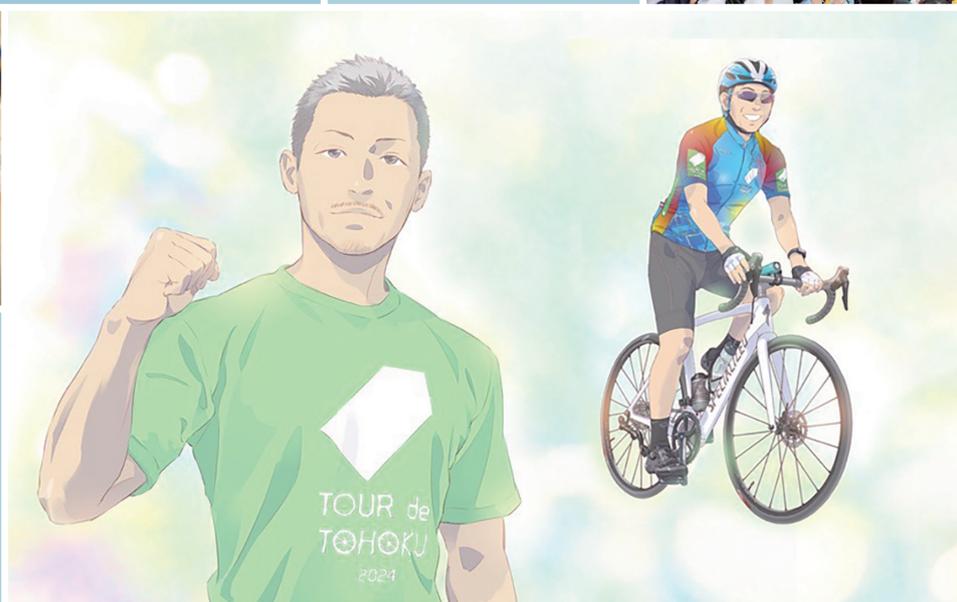
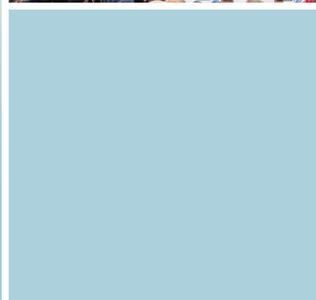


両輪で 明日へ。

CYCLE

JKA Social Action

競輪とオートレースの補助事業





JKA Social Action

競輪とオートレースの補助事業

CONTENTS

4P 競輪とオートレースの補助事業 概要

5P 競輪とオートレースの補助事業の流れ

6P 競輪とオートレースの補助事業全国 MAP

補助事業紹介

8P 地域振興 | 愛媛県 | 福祉

キッチンカーで共生社会を目指して! —— オートレーサーが応援

10P 地域振興 | 宮城県 | 災害支援

応援で心つながる —— ツール・ド・東北 2024に競輪選手が密着

12P 機械振興 | 宮城県 | 研究補助

宇宙探査や災害対策に役立てる —— クライミングロボットの研究にオートレーサーが密着

14P CYCLEレポート

自転車のまち相模原を世界へ。ツアー・オブ・ジャパン 2024 開催

熱狂の2024 宇都宮ジャパンカップサイクルロードレース

地域の“ひと・もの・こと”がつながる! 第45回「大道まつり」

沖縄の産業や伝統を、最新技術で未来へ。沖縄県工業技術センターの取り組み

子どもたちの未来へつながる食育を。第19回全国学校給食甲子園

小さな機体に、大きな夢を乗せて。神奈川大学の超小型ハイブリッドロケット開発

命の大切さを考える、「小児がんの子どもたちの絵画展」

能登にもっと元気を届けたい。愛知ネットの被災地支援

18P COLUMN 福祉車両 幸せに暮らせる地域、社会を創る移動支援

検診車 誰一人取り残さない、福祉と健康に寄与

19P 2025年度 競輪とオートレースの補助事業概要

競輪とオートレースは、 日本中のファンに 愛されるプロスポーツです。

速さだけでは勝てない「頭脳戦」。

競輪



ブレーキのない自転車で、バンクと呼ばれるすり鉢状のコースを周回して順位を争う競技。先頭は台風並みの風力を受けるため、レース序盤は選手の風よけとして誘導員が走ります。スピードに加え、周りの選手がいつでも出るかを考えながらの掛け引きも面白いところ。レース終盤は一気に追い込み、ドラマティックな展開に。エンターテインメントスポーツとして、ファンを魅了しています。



時速 150km の「超接近戦」。

オートレース



8台のバイクで、内周500mのだ円形のオーバルコースを6周して順位を争う競技。使うマシンは、ブレーキやメーターなどを削ぎ落とした、ハンドルの高さが左右で異なる専用のバイク。抜きつ抜かれつの超接近戦で、男女の区別なく同じレースを走ります。10mきざみのスタートラインを設け、選手の実力によって距離に差をつける「ハンデレース」で、最後まで目が離せないレースを楽しめます。



競輪とオートレースは、売上の一部を用いて、
ものづくり、スポーツ、地域振興等
社会に役立つ活動を応援しています。

機械振興補助事業

振興事業補助

- 自転車・モーターサイクル・障がい者スポーツ
- 安全・安心、生活の質の向上、防災・減災
 - 機械技術を活用した福祉機器の振興
 - 福祉機器の整備
- 国際競争力強化に資する標準化の推進
 - ものづくり支援
 - 地域の機械産業の振興
- 省エネルギー等の環境分野の振興
 - 医療機器の振興
 - 医療機器の整備
 - 教育用機器の整備
- 2025年日本国際博覧会への支援

公設工業試験研究所等

- 機械設備拡充
- 人材育成等
- 共同研究

研究補助

緊急的な対応を必要とする事業への支援

公益事業振興補助事業

公益の増進

- 自転車・モーターサイクル
- スポーツ(障がい者スポーツを含む)
 - 社会環境
 - 国際交流
 - 医療・公衆衛生
 - 文教・学術文化
- 新世紀未来創造プロジェクト

社会福祉の増進

- 子ども・若者
- 高齢者
- 障がいのある人
- 地域共生型社会支援事業
- 幸せに暮らせる社会を創るための活動や車両・機器等の整備

復興支援

研究補助

緊急的な対応を必要とする事業への支援

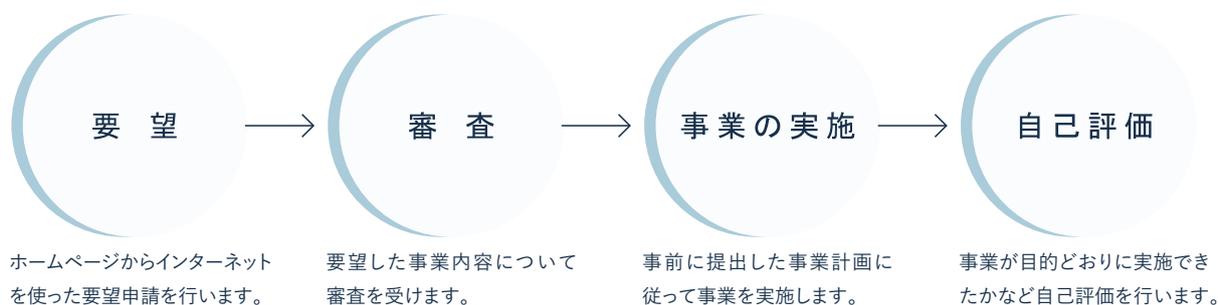
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

※この冊子でご紹介する事業は一例です。その他の事例を含め詳しい情報は、競輪とオートレースの補助事業のホームページに掲載しております。ぜひご覧ください。

※上記プロジェクトの概要は変更になる場合があります。

競輪とオートレースは 社会に役立つ活動を応援します。

競輪とオートレースの補助事業



<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

※補助事業の選定については、外部委員から構成される補助事業審査・評価委員会において慎重に審査した上で決定しています。

ひとりひとりの想いから、感動のドラマが生まれる。

社会を変えるプロジェクトをWebで続々公開中!



プロジェクトにかかわる
人たちの想いとストーリーを
記事と動画で!

Webサイト「CYCLE JKA Social Action」では、
社会課題の解決に取り組むさまざまな
プロジェクトについて、詳しく紹介しています。

補助事業の申請についても、Webで確認できます。

▼アクセスはこちらから

<https://www.jka-cycle.jp/>

JKA CYCLE



▼競輪とオートレースの補助事業をもっと知れる!



競輪とオートレースの補助事業 全国MAP

競輪とオートレースの補助事業は、日本全国に広く利用されています。研究補助や社会福祉、自転車イベントなど幅広い社会課題の解決を支援しており、みなさんの身近な場所と競輪とオートレースの補助事業は繋がっているかもしれません。

新型トラックバイク
システムの開発



東レ・カーボンマジック株式会社

機械設備の拡充



沖縄県工業技術センター

小児がんの子どもたちの
絵画展 開催



公益財団法人
がんの子どもを守る会

防府市立大道小学校
大道まつり



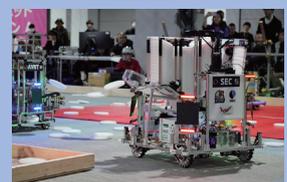
山口県防府市立大道小学校

就労支援車両
(キッチンカー)の整備



社会福祉法人光と風

次世代ロボットエンジニア
競技会



次世代ロボットエンジニア
支援機構

能登半島地震災害支援



NPO 法人愛知ネット

ツール・ド・東北 2024



一般社団法人ツール・ド・東北

オズの魔法使い公演事業



公益財団法人
名古屋市文化振興事業団

東北大学クライミング
ロボット研究



東北大学 宇野助教

神奈川大学 超小型
ハイブリットロケット打ち上げ



神奈川大学 高野教授

宇都宮ジャパンカップ



宇都宮ジャパンカップ
サイクルロードレース協会

ツアー・オブ・ジャパン
相模原ステージ



公益財団法人
相模原市スポーツ協会

全国学校給食甲子園



NPO 法人
21世紀構想研究会

精華学園高等学校
eスポーツコース



精華学園高等学校清水校

キッチンカーで 共生社会を 目指して!

オートレーサーが応援



社会福祉法人 光と風
土居わかたけ
高橋昌代 管理者



オートレーサー
黒川京介 選手

お弁当を地域へ届けるキッチンカー

社会福祉法人 光と風が運営する「土居わかたけ」は、就労継続支援 B 型や生活訓練を行う障害福祉サービス事業所です。就労継続支援 B 型とは、障がいや病気などの理由によって、企業などへの就労が困難な方を対象とした福祉サービスのこと。その一環として行われているのが、キッチンカーでのお弁当販売です。

キッチンカーが競輪とオートレースの補助事業を通じて導入されたと知り、オートレーサーの黒川京介選手が事業所を訪ねました。



利用者さんと同じエプロンを身に付ける黒川選手

「今日は遠いところからありがとうございます!」と黒川選手を迎えてくれたのは、土居わかたけ管理者の高橋昌代さんです。「中を見学してもいいですか?」と言ってキッチンカーへ入る黒川選手。車内は調理場や水道設備が完備されています。障害福祉サービス事業所が

キッチンカー販売を行うのは珍しいそうで、黒川選手は「どうしてキッチンカーを始めようと思ったんですか?」と尋ねます。

高橋さん：「利用者さんの工賃、いわゆる報酬を上げたいという想いがありました。普段私たちは、地元企業から委託された作業を利用者さんに依頼して工賃をお支払いしています。でもそれだけでは工賃を上げるのに限界があり、何か他にできないかと悩んだ結果、お弁当販売のアイデアに辿り着きました。補助事業のおかげでキッチンカーも導入でき、とても助かっています!」

お話を聞いた後、黒川選手は利用者さんと一緒にお弁当販売の現場へ向かいます。



近隣の医療福祉専門学校で販売する様子

現地では、土居わかたけのスタッフさん2名と利用者さん2名の計4人で手分けして「ご飯を詰める」「注文を聞く」「お釣りを渡す」などの作業を進めていました。次々にお客さまが来て、お弁当はあっという間に完売!

「楽しい」の笑顔をもっと

再び事業所へ戻り、利用者さんや他のスタッフさんにもお話を聞きました。

日野さん：「キッチンカーで販売する日は外に出かけられるし、調理などいろいろな経験ができていいですね」

伊達さん：「お客さまが来たら挨拶をして、お金を受け取ったらお釣りを渡して……緊張しますが楽しいです」



利用者の日野さん(左)と伊達さん(右)

黒川選手：「今まで障がいに対してぼんやりとした印象しかありませんでした。でも今日、みなさんと接して感じたのは“すごいな”ということ。大量のお弁当を素早く運んでいましたし、販売もテキパキとこなしていましたよね。学校の生徒さんとも普通にコミュニケーションを取っていたし、何なら僕、あんなにうまく作業できないです。楽しいと言えるのも素敵です」

黒川選手の言葉を聞いて、一緒に販売していたスタッフの渋谷さんと河村さんも「そんな風に言ってもらえて良かった」と嬉しそうです。



サービス管理責任者の渋谷さん(左)とスタッフの河村さん(右)

高橋さん：「私たちは“障がいを正しく理解してもらいたい”と思って活動しています。障がいがある方と接する経験が少ないと、“怖い”や“変”とを感じる人もいます

たいです。でも、目の前の人にどんな障がいがあるのか、どんな人なのかがわかればそんなに構えることもなくなるはず。黒川選手が感じてくれたことを、もっといろんな方にも知ってもらいたいですね」



黒川選手：「競輪とオートレースの補助事業がお役に立っていると知ることができて良かったです」

高橋さん：「こちらこそ!利用者みなさんも黒川選手に会えて元気をもらいました!」



最後は、利用者みなさんが一堂に会して黒川選手へ「ありがとうございます!頑張ってください!」とエールを送ってくれました。



応援で 心つながる

ツール・ド・東北 2024 に
競輪選手が密着



ツール・ド・東北



競輪選手
菅田壱道選手

東北出身の競輪選手が応援に

東日本大震災の復興支援を目的に、2013年より開催が続いているロングライド形式の自転車イベント「ツール・ド・東北」。イベントのキャッチコピーは「応援してたら、応援されてた」。毎年 1,000 人以上のライダーが「東北の復興を支援したい」「震災の記憶を未来に残したい」といった想いを掲げ、宮城県北部の海沿いを自転車で駆け抜けます。

競輪とオートレースの補助事業がツール・ド・東北の支援を行っている知り、宮城県出身の競輪選手、菅田壱道選手がレースの応援に駆けつけてくれました。

菅田選手：「今日は僕がみなさんを全力で応援したいと思います！」



走り出すライダーへエールを送る菅田選手

ツール・ド・東北のコースは 180km、100km、65kmの計3タイプ。メイン会場である石巻専修大学か

らスタートし、女川(おながわ)、雄勝(おがつ)、気仙沼大谷海岸などのエイドステーション (AS) で水分補給や栄養補給を行いつつ、再び石巻専修大学へと戻ってきます。各ASでは地元産の食材を使ったエイド食が振る舞われ、ライダーは地元ボランティアの方との交流も楽しめます。

※エイドステーション (AS) とは、コース上に設置された、食べ物やドリンクを提供する場所のこと

11年ずっと続く、応援の輪

参加者のみなさんを見送った後は「AS まで応援へ向かいましょう!」と女川 AS へ。そこでは、女川町商工会女性部のみなさんが手作りしたつみれ汁を味わう人で賑わっていました。



サンマのすり身、豆腐、ネギを塩としょうゆだけで煮込んだシンプルな味付け

「女川で獲れたサンマのつみれ汁です。ぜひ食べてみてください」と促される菅田選手。地元の味を堪能しつつ、女川町商工会女性部のみなさんにお話をうかがいます。



女川町商工会女性部：「毎年、いろんな方がおいしいと言って食べてくれるんです。それが嬉しくて。私たちがライダーのみなさんを応援しているはずなのに、むしろ私たちの方が応援してもらっている気持ちになりますね。たくさんの支援があったおかげでここまで来られたので、地元の郷土料理を振る舞って、少しでも恩返しできればという想いで毎年作っています」

まさに「応援したら、応援されてた」。走って応援する人も、走る人を応援する人も。それぞれのやり方で「応援」の輪を広げていることが伝わってきました。



「頑張って!」「応援しています!」とライダーにエールを送る菅田選手

女川ASでライダーを見送った後、雄勝ASへと向かう菅田選手。道中では各漁港から集められた大漁旗が掲げられていたり、地元の人が沿道で手を振って声援を送ったりしていて、地域全体でライダーを応援する様子が伝わってきました。



コース沿道では、ボランティアの方が大漁旗を振ってライダーを応援

雄勝ASのエイド食は、獲れたての味がするホタテ焼きや、宮城県の沿岸で水揚げされた銀鮭(ぎんざけ)を使ったおむすび。こちらもたくさんの方がおいしそうに食べていました。

たくさんの喜びを胸にゴールへ

各ASでの応援を終えた後、菅田選手は再びゴール地点の石巻専修大学へ。ボランティアの方と一緒に大旗を振ってゴールの瞬間を盛り上げます。



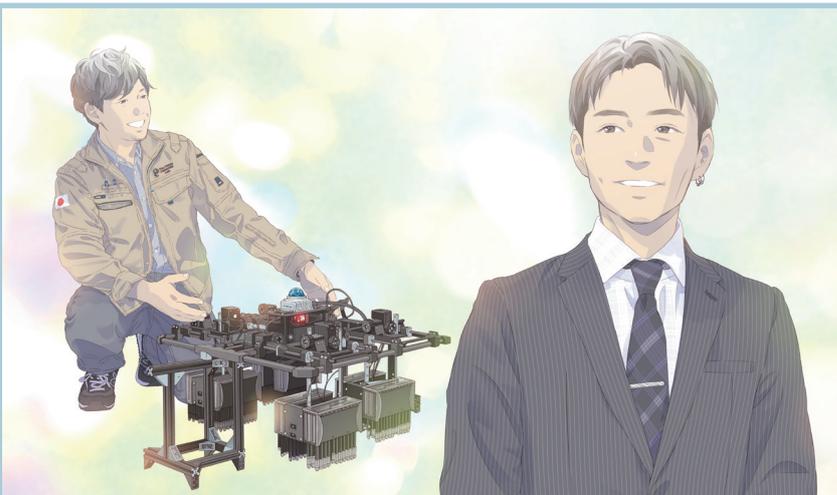
参加者のゴールを見守った後、改めて菅田選手にお話をうかがいました。

菅田選手：「会場のどこにいてもエネルギーが伝わってきて、宮城の魅力を新たに知る機会になりました。ツール・ド・東北には、競輪とオートレースの補助事業も活用されているんですね。レースを走ることによって生まれた収益の一部が、地域の貢献にもつながっているとわかって良かったです」

ボランティアの方やライダーの方はもちろん、パートナー企業による支援など、さまざまな応援を通じて、東北に笑顔と活気があふれる1日となりました。

宇宙探査や 災害対策に 役立てる

クライミングロボットの研究に
オートレーサーが密着



東北大学
宇野健太郎助教



オートレーサー
早川清太郎選手

宇宙ロボットの開発現場へ

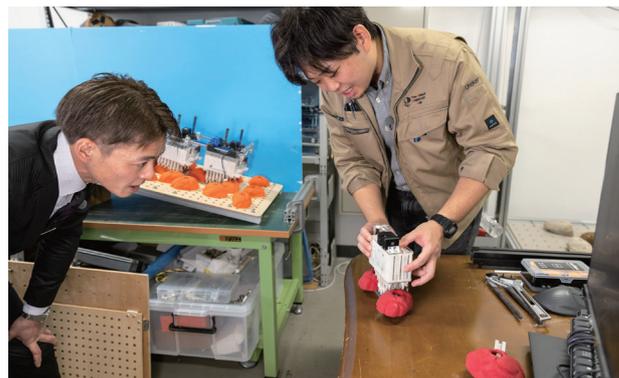
東北大学の大学院工学研究科に所属する宇野健太郎助教。彼は、月や火星といった宇宙の天体表面を始め、活火山や災害現場など、未知で過酷な環境を人間に代わって探査するロボット開発に取り組んでいます。競輪とオートレースの補助事業がこの研究を支援していると知り、オートレーサーの早川清太郎選手が研究室を訪ねました。



東北大学の宇野助教(左)とオートレーサーの早川選手(右)

「初めまして!」と早川選手を迎える宇野さん。早速「ピン配列型把持機構」というメカニズムを持つロボットを見せてくれます。

宇野さん：「僕たちが開発しているロボットは細長いピンをたくさん有しています。月面や活火山付近といった凹凸した地形に合わせてこのピンをなじませて掴み、縦横無尽に進む仕組みになっています」



早川選手：「不思議な人たちですね」

宇野さん：「学生の一人が“型取りゲージ”から着想を得て、今の機構の原型を提案してくれたんです」

早川選手：「型取りゲージから始まってこんな姿になるとは……おもしろいです!」

ピンを動かし、複雑な地形を自在に進む

ピンの先端には金属製の小さなクギが何本もあります。このクギが爪の役割を果たし、地形をグッと挟み込むように掴んで前進します。



ピンを地形にフィットさせながら前進するロボット

早川選手：「ピンの爪を岩などに引っかけることで、凸凹した地形や傾斜の高い場所も落ちずに進めるんですね。岩の他に柔らかいものを掴んだり、ツルツルした場所を進んだりはできるのでしょうか？」

宇野さん：「爪部分をゴムなどの素材に変えれば可能だと考えています。月や火口付近などの岩石地帯での移動を主に想定して開発してきましたが、技術が確立すればゴツゴツした野菜やツルツルした果物の仕分け作業にも応用できると思います」

未知を開拓する技術で社会に貢献

宇野さん：「複雑な地形をした洞窟やどれほどの深さかわからない洞穴など、月には未開拓の領域がたくさんあります。僕たちの夢は、そういった場所へ最初に辿り着くロボットをつくること。技術が確立すれば、宇宙に関する研究は大きく飛躍するでしょう。また、月面探査の技術は地球上でも応用できます。活火山や渓谷、深海など極限環境の土や石の採取も可能になります」

宇宙で活動するための技術を、地球や社会に貢献できる技術に変えていく。そうなれば、私たちの生活もより便利になりそうです。



互いの勇姿に励まされて

その後、研究室に所属する学生のみなさんも含めた座談会を行いました。

早川選手：「僕も少年の頃、ロボットコンテストなどをTVで見て憧れていたんですよ。今日の訪問を通じて幼い頃の憧れを思い出せました。それから、みなさんの柔軟な発想にも驚かされました」

宇野さん：「僕たちの研究は競輪とオートレースの補助事業にも応援いただいています。そのおかげで、本体に取り付けるモーターや基盤、細かな部品やパソコンなど必要な物資が購入できています。ロボット開発には大きな予算がかかるため、日々とても助かっています」



早川選手、宇野さん、研究室に所属する学生メンバーとの座談会の様子

早川選手：「競輪とオートレースの補助事業があるのはもちろん知っていました。でも、どんな風に使われているのかは把握できていなかったんです。だから今日、宇野さんたちからお話が聞けて誇らしく感じました」

学生さん：「これからも研究を進め、みなさんの生活に役立つ技術につなげたいです！」

宇野さん：「早川選手、今日はありがとうございました！これからも応援しています」

早川選手：「将来、みなさんのロボットが活躍して社会に貢献している姿を見るのが楽しみです。頑張ってください！」



自転車のまち相模原を世界へ。 ツアー・オブ・ジャパン 2024 開催



国内最大規模の自転車ロードレース「ツアー・オブ・ジャパン」の第7ステージが、2024年5月25日(土)に相模原で開催されました。いざ、レースの火蓋が切れて落とされると、選手たちは前へ前へと、ときにお互いぶつかりそうになりながら、凄まじいスピードで走り抜けていきます。沿道には多くの地元の方やロードレースファンが集まり、白熱の試合を展開する選手たちに熱い声援を送っていました。レースは海外勢を先頭に、日本ナショナルチームの兒島直樹選手が3位につけるなど健闘を見せてくれました。

レースの興奮が冷めやらない中、兒島選手に感想を伺うと、「レースに集中しながらも、相模原のきれいな自然にリラックスして走ることができた」とすっきりした笑顔に。また、ツアー・オブ・ジャパン 2024の大会組織委員会委員長の栗村修さんからは「競輪とオートレースの補助事業の支援を受け、1982年に前身の大会が始まりました。日本の自転車競技発展のため、これからも大会運営を続けていきたい」、補助事業先となる公益財団法人相模原市スポーツ協会からは「自転車のまち相模原として、地域の魅力創出を行いたい」と未来の展望についてのコメントをいただきました。



レース直後、快く取材に応じてくれた兒島選手

熱狂の2024宇都宮ジャパンカップ サイクルロードレース



アジア最高位のワンデイロードレースを開催する大会が、2024年10月18日(金)から3日間にわたって開催されました。大会2日目、参加する全20チームのうち、圧倒的な人気を誇っていたのが「宇都宮ブリッツェン」です。レース前の意気込みを伺うと、キャプテンの谷選手からは「僕ら選手にとっても、宇都宮市の皆さんにとっても大きなイベントなのでがんばりたい」、沢田選手からは「声援を力に変えて、力強い走りでお返していきたい」と、気合い十分な声を聞かせてもらいました。

両選手が出場したのは、宇都宮市大通りを周回するコース。レースはハイスピードな展開を繰り広げた後、海外勢が逃げ切り幕を閉じました。大会後、運営に携わる宇都宮市役所、スポーツ都市推進課スポーツ戦略室室長の杉山敬宏さんからは、「競輪とオートレース補助事業には大会運営にご協力をいただいています。大会開催を通して、宇都宮を国内最高峰の自転車レース開催都市として広めていきたいです」とコメントをいただきました。

1日中、街全体がジャパンカップ一色に染まっていた宇都宮。選手も観客も楽しんでいる姿が印象的でした。



笑顔で取材に応じてくれた谷順成選手(左)、沢田時選手(右)

地域の“ひと・もの・こと”がつながる! 第45回「大道まつり」



2024年11月10日(日)、山口県防府市にある大道小学校にて「大道まつり」が開催されました。会場には地域の人々による出店が並び、その中のひとつに大道小学校5年生による「子ども出店」がありました。歴史ある中で、子どもたちが出店を企画・運営するのは今回が初めてのこと。大道小学校の矢ヶ部校長曰く、子どもたちがふるさとへの愛着と誇りを持つことでこの先の人生の“心棒”になるよう、地域の宝である“ひと・もの・こと”をつなぎたいと考え、競輪とオートレースの補助事業に申請し、出店参加を決めたそうです。

出店に向けて子どもたちは、さつまいもやもち米を育てたり、愛らしいキャラクターづくりにも取り組んだりしてきました。当日は自分たちの育てたもち米で餅つきを楽しむ一幕もあり、「餅つきはちょっと難しかったけど面白かったです!」と初めての体験が思い出になった男の子もいました。

矢ヶ部校長は大道まつり参加への想い、子どもたちの未来への想いについて、「出店を通して“ひと”のあたたかさに触れたり、成長を実感したりすることで、いつか大人になったときに地域の担い手となってくれることが私の夢です」と笑顔で語ってくれました。



キャラクターづくりを取りまとめた広報部のメンバーたち

沖縄の産業や伝統を、最新技術で未来へ。 沖縄県工業技術センターの取り組み



沖縄県の伝統工芸から製造業までを幅広く支えているのが、「沖縄県工業技術センター」です。主に県内の企業や職人さんたちの代わりに試作品を製造したり、製造に必要なデータの算出などを行っています。施設内には水や空気の流れ、構造物の強度などを算出し、ルアーや首里城内の額縁を補強する金具などに使用されるCAE(Computer Aided Engineering)や、沖縄県の伝統的な焼物である壺屋焼の型などを成形している3Dプリンターなど、さまざまな機械の導入に競輪・オートレースの補助が活用されていました。

特に3Dプリンターは、成形した型を活用している窯元「育陶園」でお話を伺うことができました。そこで壺屋焼に携わる鶴田さん(写真右)曰く、「3Dプリンターを活用させていただいているのは大量生産のためではなく、職人さんたちが時間をかけて習得した技術を、次世代に伝えるための時間を確保したいと思ったからです」とのこと。沖縄県工業技術センターの亘保さん(写真左)も、「我々が持つ環境や機械をどんどん活用してもらい、沖縄のものづくり産業をもっと元気にしていきたいです」と語り、沖縄県のものづくりの未来に期待が感じられる時間となりました。



壺屋焼の未来をともに見つめる二人

子どもたちの未来へつながる食育を。 第19回全国学校給食甲子園



全国各地から集まった学校（施設）が、栄養バランスや食材にこだわった給食を調理して競い合う「全国学校給食甲子園」。第19回大会は、1,051件※の応募から選ばれた12代表が一堂に揃いました。

いざ、調理スタート。会場が一気に調理の音で活気づく中、特に印象的だったのがチームごとに行う声かけです。この大会は献立の味や見た目、栄養バランスはもちろん、衛生管理や作業効率まで細かく評価されます。互いに声をかけ合うことで状況を把握し、最大限にパフォーマンスを発揮できるようにしているのです。

手に汗握る対決の後は審査が行われ、審査副委員長からは「各チームの創意工夫に感心した」という声も。そして、給食日本一の栄冠を手にしたのは、石川県立明和特別支援学校！地元の食材をふんだんに使った献立が選ばれました。大会後には、大会主催の認定NPO法人21世紀構想研究会理事長、馬場錬成さんより各チームへの労いや賞賛の言葉を、事務局長の峯島朋子さんからは「JKA様の補助事業に関するテーマのひとつ“人生100年時代をどう生きるか”と本大会の趣旨が重なり、応募しました。これからも子どもたちに正しい食の知識を届けていきたい」とコメントをいただきました。

※献立の応募総数



配膳、盛り付けまで、細やかな作業が求められた

小さな機体に、大きな夢を乗せて。神奈川大学の超小型ハイブリッドロケット開発



神奈川大学の航空宇宙構造研究室で、日夜研究・開発が行われている超小型ハイブリッドロケット。宇宙産業が盛り上がる昨今、超小型衛星における打ち上げコストなどの課題を解決する存在として、多くの期待が寄せられています。2024年12月14日（土）には「鈴木丸」の打ち上げ実験が福島県の南相馬市にて行われ、地元住民の皆さんも見守る中、無事に打ち上げと機体回収が成功しました。ロケットの名前の由来になり、学生側のリーダーを務めた研究室所属の鈴木悠介さんは、「過去の打ち上げとは違い、今回は責任のある立場

でしたので、打ち上げ直後は心が震えました。リーダーシップなど、ロケットのことでなくても多くを学ばせていただいた実験だったと思います」と、嬉しそうに語っていました。また、研究室の代表を務める高野敦教授も、「超小型衛星は宇宙研究だけでなく、農業や漁業の観測、海難救助、エンターテインメントなど、多くの分野での活用が期待されます。今回は機体の回収ができたので、より正確な改善ができると思います。我々の研究が、宇宙産業の可能性を広げていくことにつながれば嬉しいです」と、次なる打ち上げ実験に向けての手応えを感じたようでした。



ロケット回収の報告に思わず笑みがこぼれた高野教授

命の大切さを考える、 「小児がんの子どもたちの絵画展」



現在、年間2,000～2,500人の子どもたちが小児がんと診断されています。その一方で、子どもたちやご家族の置かれた環境、医療技術の進歩は知られていない現状を受け、正しい知識と理解を社会に広めるために絵画展は開催されました。

会場には36作品が飾られ、愛らしいにわとりとひよこが目を引き一枚は当時2歳だった井田さんの作品です。絵の具を



「いつでもいっしょだよ!」井田裕太さん

塗って手形を取るのをとても楽しんでいました。また、1歳で脳腫瘍になり、今なお治療と通院を続ける倉本さんの作品も。現在は音楽大学のピアノ科に通い、いつか音楽の力で役に立ちたいという思いが絵画の中に込められていました。

絵画展を企画・開催した、公益財団法人がんの子どもを守る会の恩田さんからは、「競輪とオートレースの補助事業で支えていただくことで、大切な絵画をお預かりすることができました。これからも、治療しやすい環境づくりや社会の理解を促していきたい」というコメントをいただき、改めて命の大切さや正しい情報への理解を考えさせられるひとときとなりました。



色鉛筆でカラフルに描かれた「ピアノとぼく」倉本知真さん

能登にもっと元気を届けたい。 愛知ネットの被災地支援



2025年3月12日(水)石川県羽咋郡志賀町にある仮設住宅地で愛知ネットによるうどんの炊き出しが行われました。愛知ネットとは、全国各地で災害救援と防災啓発を中心に活動する認定特定非営利活動法人。この日は一台のキッチンカーとともに、志賀町に訪れました。炊き出しが始まると、キッチンカーに向かって並ぶ入居者からは、「元気にやっとな?」「久しぶりに顔を見られて嬉しいわー」と明るい声。この炊き出しには、入居者が外に出て人と話す、コミュニケーションのきっかけをつくるという思いも込められていました。

愛知ネットは、能登半島地震発生時から志賀町の支援へ動き出していました。炊き出しメンバーの濱口さんからは、「真冬だった当時、温かい食事ですれども被災者を元気づけて炊き出しを始めました。支援活動を継続的かつ長期のものにするために、競輪とオートレースの補助事業に申請しました」というお話を、西川さんからは「継続的な支援によって被災者との距離感が近づき、いろいろな声を聞くことができました。今後の支援に活かしたい」というお話を伺いました。ふたりの支援にかける意志、目指したい未来は、能登の青空に届きそうなほどまっすぐに向けられていました。



入居者一人ひとりに声をかけ、うどんを手渡す炊き出しメンバー

(福祉車両) 幸せに暮らせる地域、社会を創る移動支援

地域の福祉環境向上を目指し、施設利用者の送迎などに使われる福祉車両の購入を支援しています。幸せに暮らせる社会を創るための恒常的な支援だけでなく、大雨などで被災した地域における緊急支援や、新型コロナウイルスの感染拡大などの社会情勢に応じた追加支援も実施。地球環境への配慮などの観点から、HV（ハイブリッド自動車）やコンパクトカーの福祉車両整備も積極的に支援

しています。

2025年度は165件(4億542万9000円)を助成しました。地方において公共交通機関の減少・サービス水準の低下などが社会問題となっていることに加え、移動支援に対する需要はますます増えていくと考えており、福祉車両整備の支援に一層注力していきます。



訪問入浴車と分割浴槽



(COLUMN | 福祉車両・検診車)



胸部X線撮影装置



(検診車) 誰一人取り残さない、福祉と健康に寄与

地域社会の医療環境の向上を目指し、医療機関の少ない地域や学校・職場の集団検診などで使用される検診車についても、整備の支援を積極的に進めています。検診車は、すべての人の福祉と健康の向上に向け、病気の早期発見と予防のために使用されています。

2025年度は36件(10億795万円)を助成しました。近年は、病院での受診や外出の機会が減っており、健康

を害する方が増えています。検診車の積極的な導入によって受診機会を増やすだけでなく、既存のX線デジタル検診車よりも撮影精度が高く、新型感染症対策に有効であるとされているCT検診車を補助対象とすることで、重症化の抑止やさらなる健康増進に寄与することを目指します。

※助成には検診機器の乗せ替えを含みます。

2025年度 競輪とオートレースの補助事業概要

機械振興補助事業一覧表

2025年4月1日現在(単位:千円)

事業区分	対象事業	採択	
		件数	金額
振興事業補助	自転車競技に関する機材の開発・改良・調査・研究	4	222,436
	自転車・モーターサイクル(社会づくり、安全・安心)	3	50,598
	自転車・モーターサイクル(IOT化の促進)	0	0
	障がい者スポーツ	0	0
	安全・安心、生活の質の向上	8	180,721
	防災・減災に資する取組み	1	27,400
	福祉機器の振興	0	0
	福祉機器の整備	189	874,663
	国際競争力強化に資する標準化の推進	10	77,138
	ものづくり支援	13	149,656
	地域の機械産業の振興	1	8,838
	省エネルギー等の環境	1	5,265
	医療機器の振興	1	25,000
	医療機器の整備	4	34,074
	教育用機器の整備	18	49,279
	2025年日本国際博覧会	2	300,000
	公設工業試験研究所(機械設備拡充)	55	1,278,486
	公設工業試験研究所(人材育成等)	2	3,588
	公設工業試験研究所(共同研究)	4	7,834
	計	316	3,294,976
研究補助	個別研究	120	598,164
	若手研究	45	89,853
	開発研究	15	224,895
	ステップアップ研究	10	100,000
	複数年研究	52	519,867
	計	242	1,532,779
合計	558	4,827,755	

公益事業振興補助事業一覧表

事業区分	対象事業	採択	
		件数	金額
公益の増進	自転車(競技力向上等)	2	191,658
	自転車・モーターサイクル	45	722,973
	スポーツ・パラスポーツ	19	442,264
	社会環境	7	301,013
	国際交流	3	36,355
	医療・公衆衛生	57	1,280,600
	文教・学術文化	12	95,037
	新世紀未来創造プロジェクト	14	13,026
	計	159	3,082,926
	社会福祉の増進	子ども・若者	5
高齢者		1	1,824
障がいのある人		14	122,800
地域共生型社会支援事業		6	25,936
幸せに暮らせる社会を創るための活動や車両・機器等の整備		192	596,909
計		218	767,599
復興支援事業		3	8,458
研究補助	7	17,844	
合計	387	3,876,827	

